

「巡検会報告」

「北九州博物館の見学と山口県の“鳥巢石灰岩”巡検

岡 洋平・本多栄喜¹⁾

1. はじめに

平成 17 年 8 月 11, 12 日に表記の巡検会が行われた。今回の巡検会の目的は、山口県吉母での「観音崎地先の石灰岩(鳥巢石灰岩)観察」または「吉母層の貝化石採集」である。参加人数は 20 名で、大阿蘇観光バスのマイクロバスに乗り、巡検した。

11 日は熊大に 8 時 40 分に出発し、高速に乗って北九州のいのちのたび博物館へと行った。博物館で各自昼食をとった後、山口県の吉母へと向かった。吉母に着くと、吉母層の化石採集をする組と、観音崎先地の石灰岩“鳥巢石灰岩”観察をする組の二つに分かれて行動した。鳥巢石灰岩を観察する組は、目的地へ行く途中で見られる斑(まだら)岩を見ることはできたが、目的地が目と鼻の先というところまで来たところで、潮が完全に引いておらず、高い波が打ち寄せることにより、先へと進むことができなくなり、残念ながら鳥巢石灰岩を観察することはできなかった。その後、すぐに宿泊先へと向かった。貝化石の採集をした班は、収穫が多かったようだ。宿泊先は北九州市門司の関門海峡が見渡せる国民宿舎「めかり山荘」で、夕食の時には熊大三年生の研究室を渡邊先生と田中先生の地学研究室に決めた学生 6 人の紹介も行われた。

12 日は、「めかり山荘」で朝食をとり、8 時 30 分に見学先である平尾台へと出発した。平尾台では、カルスト地形を見た後で、平尾

台の博物館へと向かい、平尾台の形成について勉強した。その後は、関門層群の恐竜の化石が見つまっている道原(どうばる)へ行き貝化石の採集をした。そして、ドライブインで各自昼食をとり、炭鉱のまち、大牟田市の産業科学館へと向かった。

炭鉱について学習した後は、帰路についた。お盆前ということで、高速も混んでいて、多少予定時間よりは遅れたものの、事故もなく無事に熊大に着き、解散した。

2. 各巡検先についての報告

①北九州博物館

生命の進化の道筋と人の歴史を展示解説し、未来へ向けての私たちの生き方を考えるために「いのちのたび」をコンセプトとしてつくられた博物館であった(写真 1)。

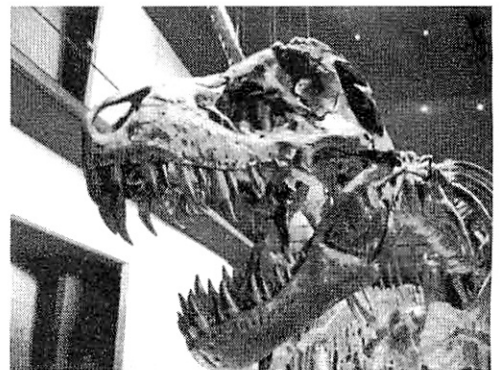


写真 1 北九州博物館に展示されている、ティラノサウルスの模型

1) 熊本大学教育学部

自然史ゾーン、歴史ゾーン、交流ゾーンの三つのゾーンに分かれており、自然史ゾーンでは様々な化石や標本などの展示物を見たり、3Dで古生物を観察したりすることのできるコーナーもあった。

あまりにも広すぎるこの博物館は、2時間程度では見終わることができず、歴史ゾーン、交流ゾーンはほとんど回ることができなかった。次回、訪ねる機会があるときは、是非1日かけて見学したいものである。

② I. 観音崎地先

ここでは、図1に示すようなルートを通り“鳥巢石灰岩”を見るために海岸沿いの岩場を歩いていった。

学生にとっては初の巡検で、このような断崖絶壁を歩くのは初めてであったので、観音崎地までの道のりの中、学生は足手まといになってしまった。

途中で斑（まだら）岩といわれる、多量の斑晶をもつ斑状組織の火成岩を見ながら、目的の鳥巢石灰岩のある場所まで向かった（写真2）。しかし、潮が引ききっておらず、波も激しかったため、もうそこに見える、というところまで来て、引き返すこととなった。

II. 吉母海岸

比較的体力に自信のないグループは、吉母層の化石を採集するために、吉母海岸へ向かった。道路から海水浴場を横切ると、二枚貝の入った頁岩の転石が目につく。その南ですぐに火成岩の岩脈の崖が立ちはだかり、ロープで越えて、数名がさらに南に挑戦した。岩脈を超えると砂岩頁岩の互層が露出し、それらの露頭や転石から、吉母層から産する二枚貝化石（テトリア、エオミオドン、プルシデスなど）の多くが採取できた。

③平尾台

平尾台は福岡県北九州市小倉南区にある、南北約7km、東西約2kmの石灰岩台地である。石灰岩地域では、主成分の炭酸カルシウムが炭酸ガスを含む雨水や地下水に溶食され

て、特有の地形が発達する。平尾台ではすり鉢状のドリーネが多く見られた。地表には露出した石灰岩が羊の群れのように分布する（写真3）。石塔が林立するこの種の原野をカレンフェルト（石塔原）という。地表の水流はなく、地下水系が発達しており、千仏鍾乳洞など多くの鍾乳洞がある。

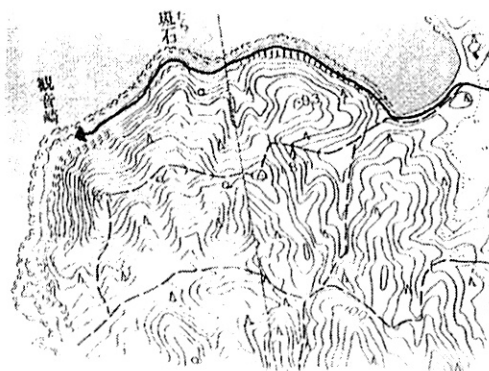


図1 観音崎地先までのルートマップ



写真2 斑（まだら）岩

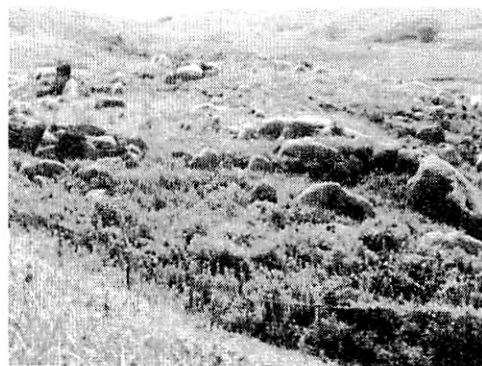


写真3 平尾台の風景。石灰岩が羊の群れのように分布している。

④道原での貝化石採集

道原（どうばる）は北九州市小倉南区にあり、関門層群に区分される。これまでに貝や魚の化石が多く産出しており、恐竜の化石も見つかっている。ハンマーを用いて、中粒砂岩をたたくと、貝化石を見つけることができた。

関門層群は層序・岩層・産出化石の相違に基づき、下位から脇野亜層群・下関亜層群に区分される。

⑤石炭産業科学館

石炭産業科学館では、炭鉱のまちとして栄えた大牟田の歴史や炭鉱技術のあゆみ、石炭の活躍の幅広さを時代を振り返りながら学んだ。有明海の地下400mの坑内採炭作業現場を再現した「ダイナミックトンネル」は迫力があって最高だった。アトラクションも多く、エネルギーや地球環境について楽しく考えることができた。

3. おわりに

今回地学会の巡検会に初めて参加させていただきましたが、私たちのようにほとんど地学の知識のない学生にとっては、見るもの、聞くもの全てが学習であり、興味・関心を引くものでありました。継続して地学会の巡検会に参加されている方々が生き生きと話されているのを見て、その知識の豊富さと、直接実物に触れることのできる巡検会に継続して参加することの大切さを強く感じました。私たちは地学に関して、本当に何も知らない者ですが、大学での講義で基本的な知識を身につける努力をしていくとともに、これからも多くの巡検会に参加し、楽しく、多くのことについて学んでいこうと決意したところです。

最後になりましたが、全行程で案内をして下さった、田中均先生、池上直樹先生に感謝します。また、巡検先に向かうバスの中で話をして下さった岩永さん、渡辺先生、そして、バスの中でガイドをして下さった田口清行先生ありがとうございました。